

鹿児島県総合教育センター

令和3年度長期研修研究報告書

研 究 主 題

主体的に自己の生き方についての考えを深める児童を
育成する道徳科の授業の在り方
ー教材と児童の生活を結び付ける指導の工夫を通してー

鹿児島市立犬迫小学校

教 諭 外 崇広

[目 次]

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の構想	
1	研究のねらい	1
2	研究の仮説	1
3	研究の計画	2
III	研究の実際	
1	研究主題についての基本的な考え方	
(1)	「主体的に自己の生き方についての考えを深める児童」とは	2
(2)	「教材と児童の生活を結び付ける」とは	3
(3)	本研究で目指す児童の学びの姿	3
2	児童の実態調査及び結果と考察	
(1)	実態調査の概要と結果	4
(2)	考察	5
3	主体的に自己の生き方についての考えを深める児童を育成する道徳科の授業づくり	
(1)	【工夫1】年間指導計画の工夫	6
(2)	【工夫2】1単位時間の学習指導過程の工夫	11
4	検証授業による研究の検証	
(1)	【工夫1】年間指導計画の工夫の実際	14
(2)	【工夫2】1単位時間の学習指導過程の工夫の実際	15
(3)	考察	21
IV	研究のまとめ	
1	児童への意識調査と考察	
(1)	意識調査の概要と結果	22
(2)	考察	22
2	研究の成果	23
3	今後の課題	23
	【引用文献, 参考文献】	

I 研究主題設定の理由

多様な考え方や価値観が共存し、予測困難な時代を生きる子供たちにとって、答えが一つではない道徳的な課題を自分自身の問題と捉え、向き合い、主体的に判断することの重要性は一層高まっている。このような背景から、平成 27 年 3 月、学校教育法施行規則が改正され、「道徳」は「特別の教科である道徳」（以下「道徳科」という。）とされた。以降、本校においても、年間 35 単位時間の量的確保はもちろんのこと、児童が考え、議論する中で道徳的価値を理解し、その自覚を深めるという質的転換に向けた授業改善の取組を推進している。

本校は、学校教育目標を「心身ともにたくましく、自ら考え判断し、自己を伸ばす実践力のある子供を育成する。」、道徳教育全体目標を「自己の生き方を見つめ、思いやりや規範意識をもって他者と関わり、よりよく生きようとする児童を育てる。」としている。本校児童の多くは、物事に対して素直な気持ちで一生懸命活動し、道徳科の授業においても教材の登場人物の心情等を自分なりによく考え、積極的に発表することができる。しかしその一方で、受動的な思考で話合いが深まらない、終末場面において実践意欲が高まらないといった実態があり、振り返りでの発言や記述が道徳的価値の表面的な理解にとどまることも多く、諸目標の達成に向けて課題が見られる。

その要因として、実態調査において道徳で学ぶことが役立っていると実感している児童が半数ほどであったことから、授業で扱った道徳的価値の意義や大切さを自分との関わりで捉えていないことや、既習の内容からの発展性や授業相互の関係性を意識していないことが挙げられる。そのため、児童の思考が教材の中にとどまってしまい、目的意識や主体性が高まらないのではないかと考えた。田沼¹⁾（2017）は、考え、議論する道徳授業の在り方について、自分の生き方や自分の人生を切り拓く際に求められる具体的な生きて働く力としての資質・能力を学びの経験として育むことの必要性を述べている。そして、そのために児童が目的をもって学習に取り組み、他者との対話を積み重ね、自己内対話を行うことを通して、新たな道徳的気付きや自らの道徳的課題への自覚、更には道徳的実践への見通しを明確にできるようにすることが重要であると述べている。

つまり、児童が自らの生活に基づく課題を明確にして教材から学び、そのことを新たな道徳的価値観の形成へとつなぐことが大切である。そのためには、児童が毎時間の授業のつながりを認識し、学習を通じた考えの変容や道徳的価値と自らの生活との関わりを自覚できるようにする必要がある。そこで、年間を見通した指導計画の立案や 1 単位時間の学習指導過程の工夫が必要であると考えた。

このようなことから、教材と児童の生活を結び付けることを意識した年間指導計画や学習指導過程の工夫を行えば、児童は主体的に自己の生き方についての考えを深めることができるようになると考え、本主題を設定した。

II 研究の構想

1 研究のねらい

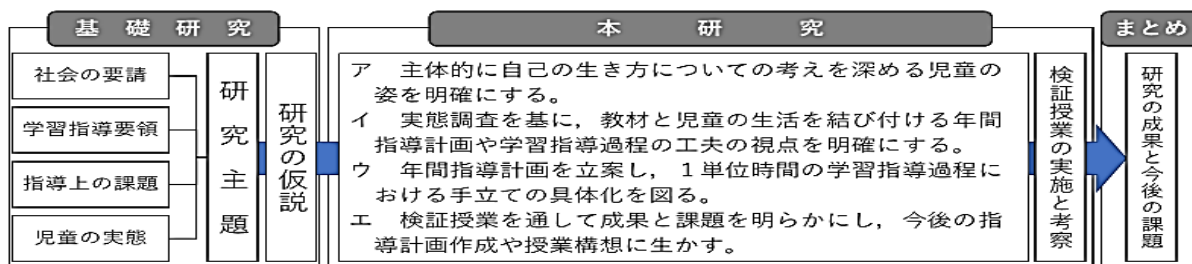
- (1) 主体的に自己の生き方についての考えを深める児童の姿を明確にする。
- (2) 実態調査を基に、教材と児童の生活を結び付ける年間指導計画や学習指導過程の工夫の視点を明確にする。
- (3) 年間指導計画を立案し、1 単位時間の学習指導過程における手立ての具体化を図る。
- (4) 検証授業を通して成果と課題を明らかにし、今後の指導計画作成や授業構想に生かす。

2 研究の仮説

道徳科の授業において、教材と児童の生活を結び付けることを意識した年間指導計画や学習指導過程の工夫を行えば、児童は、主体的に自己の生き方についての考えを深めることができるようになるのではないだろうか。

1) 田沼茂紀（2017）『道徳科授業のつくり方-パッケージ型ユニットでパフォーマンス評価-』 東洋館出版社

3 研究の計画



Ⅲ 研究の実際

1 研究主題についての基本的な考え方

- (1) 「主体的に自己の生き方についての考えを深める児童」とは

道德教育の目標は、小学校学習指導要領において次のように示されている。

道德教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を養うことを目標とすること。

ここで示されている「自己の生き方」を考えると、『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』²⁾（2021）によると、「児童一人一人が、よりよくなろうとする自己を肯定的に受け止めるとともに、他者との関わりや身近な集団の中での自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己について深く見つめること」である。また、「主体的な判断の下に行動」とは、「児童が自立的な生き方や社会の形成者としての在り方について自ら考えたことに基づいて、人間としてよりよく生きるための行為を自分の意志や判断に基づいて選択し行うこと」²⁾であり、「児童が日常生活での問題や自己の生き方に関する課題に正面から向き合い、考え方の対立がある場合にも、自らの力で考え、よりよいと判断したり適切だと考えたりした行為の実践に向けて具体的な行動を起こすこと」²⁾である。

つまり、よりよく生きたいと願う自己に気付き、そのことを主体的に志向し実現しようとする児童を育成することが大切であると考え。

また、道德科の目標は、次のように示されている。

第 1 章総則の第 1 の 2 の (2) に示す道德教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道德性を養うため、道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

ここで示されている「自己の生き方についての考えを深めること」について、『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道德編』³⁾（2020）（以下「解説」）は、「児童は、道德的価値の理解を基に自己を見つめるなどの道德的価値の自覚を深める過程で、同時に自己の生き方についての考えを深めているが、特にそのことを強く意識させることが重要である。」と示している。

児童は本来、希望に満ちあふれた存在であり、よりよい生き方を望み、自らの在り方について自問自答を繰り返しているのではないかと考える。しかしながら、そのような自己を常に意識しているものではない。道德科の授業は、それらの経験について立ち止まり、振り返り、見つめ直すことを促し、その上でこれからの生き方に思いを巡らせることのできる時間であると考え。したがって、授業で取り上げた事象を自己の生き方と関わりのあることと捉え、よりよく生きたいと願う自らの問題について探求し、新たな道德的価値観（道德的価値に関わる感

2) 文部科学省（2021）『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』（2 版）東洋館出版社

3) 文部科学省（2020）『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道德編』（6 版）廣済堂

じ方や考え方)を自覚できるようにすることが大切であると考え。

以上のことから、「主体的に自己の生き方についての考えを深める児童」の姿を次のように捉えた。

道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止め、自己のよりよい生き方を支える考えを探求し、その深まりを自覚することができる児童。

(2) 「教材と児童の生活を結び付ける」とは

教材とは、児童に考えさせたい道徳的価値に関わる事項が含まれたものであり、児童の生活とは、これまでの体験は元より今後様々な状況でどのような生き方を実現していくかということまでを含めた道徳的場面の連続であると捉えた。道徳科では、伝記、実話、物語などの多様な教材を活用し、児童が伸び伸びと自らの考えを表現したり、人間や社会に大きな憧れを抱いたりできるようにする。一方で、教材の内容や扱われている道徳的価値が、児童にとって自らの生活とどのように結び付いているのかを見いだしづらい場合もある。したがって、教材から見いだした道徳的価値を自身の生活との関わりで捉えるために、自らの問題を明確にした上で教材から学び、そのことを生活においてどのように生かしていくかを考えられるようにする必要があると考える。

以上のことから、「教材と児童の生活を結び付ける」ことを次のように捉え、手立ての具体化を図るようにした。

児童が問題意識や必要感をもって教材から道徳的価値を見だし、その理解を自己の成長やよりよく生きる上で大切にしたい考えにつなげられるようにすること。

(3) 本研究で目指す児童の学びの姿

(1)、(2)で述べたことから、授業づくりに当たっては、図1のような児童の学びの姿の実現を目指した。

児童はこれまでの実生活で自らが体験してきたことに伴う道徳的価値観を持っており、それが、道徳科の授業での学びを通して更新され、これからの生き方へと生かされていく。授業で扱う道徳的

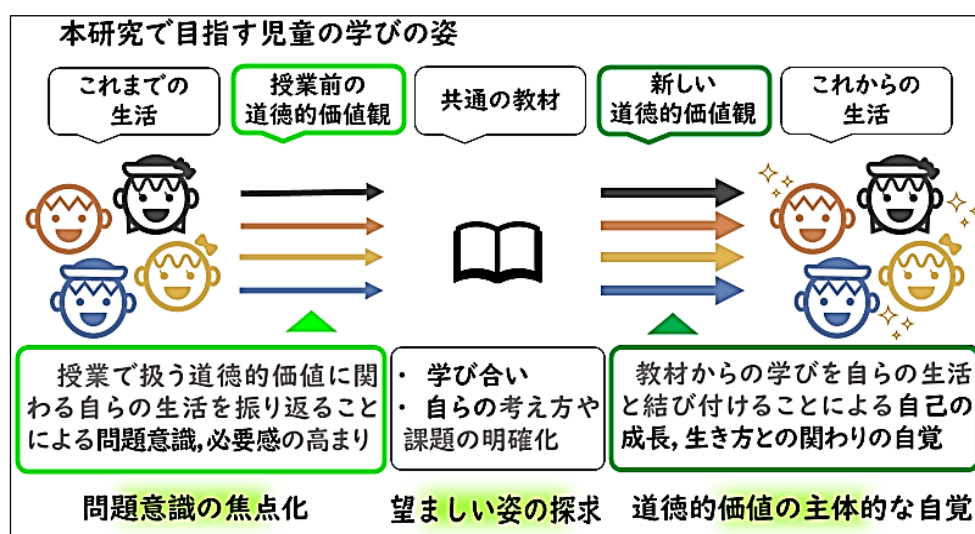


図1 目指す児童の学びの姿

価値に関わるこれまでの児童自身の生活経験は、問題意識や必要感といった学ぶ動機 の礎となり、更には教材を通して学び合う際の自らが考えるよりどころとなる。そして、授業を通じた自己の成長やよりよく生きる上で大切にしたい考えの探求は、これからの自身の生活及び生き方を支えていくものである。

そこで、授業で扱う道徳的価値に関わる自らの生活を振り返ることによって問題意識や必要感を高めること(問題意識の焦点化)、学び合いを通して、道徳的価値について多面的・多角的に考えたり自らの考え方や課題を明確にしたりしながら、人としての望ましい姿を探求すること(望ましい姿の探求)、教材から学んだことを自らの生活に結び付けて考え、自己の成長や生き方との関わりを自覚すること(道徳的価値の主体的な自覚)を重視することによって、主題に迫りたいと考えた。

2 児童の実態調査及び結果と考察

(1) 実態調査の概要と結果

調査目的	主体的に自己の生き方についての考えを深める児童を育成する上での児童の道徳科における学び方の実態を明らかにし、指導上の課題を探る。
実施日	令和3年6月9日
調査対象	鹿児島市立犬迫小学校3～6年生34人
調査方法	児童の道徳科の授業に対する意識について、質問紙法により調査
調査結果	表1を参照

表1 児童の道徳科の授業に対する意識調査の結果

視点	設問	結果 (%)
		■ そう思う ■ ややそう思う ■ ややそう思わない ■ そう思わない
問題意識の焦点化	① 道徳の授業で、今の自分やこれからの自分についてじっくりと考えている。	 59 38 3 97
	② 道徳の授業で学んだことを、生活の中で思い出したり友達や家族と話したりすることがある。	 38 41 18 3 79
望ましい姿の探求	③ 道徳の授業で、人によって考え方や感じ方は違うなと感じる時がある。	 65 29 6 94
	④ 道徳の授業で、「当たり前だけど、実際に行動することは難しいことだな。」と感じる時がある。	 38 53 9 91
	⑤ 道徳の授業で、友達の意見を聞いて新しい発見をしたり驚いたりすることがある。	 44 38 12 6 82
道徳的価値の主体的な自覚	⑥ 道徳の授業は、大切だと思う。	 85 15
	⑦ 道徳は、私たちの生活や社会をよりよくする学習だと思う。	 91 6 3
	⑧ 道徳の授業で学んだことが、自分に役立っていると感じることがある。	 56 41 3

(2) 考察

ア 問題意識の焦点化について

設問①において、「そう思う」、「ややそう思う」と回答した割合は 97%であるが、設問②においては 79%と比較的低かった。このことから、授業において児童が一生懸命に考えたことが、自身の生活と結び付いていない場合があると考えられる。その要因として、児童にとって自らの生活と結び付いた問題が明確になっていないために、学んだことを生活の中で想起したり、自身の成長を実感したりすることができていないことが考えられる。そのため、授業においては、児童の生活に関連した問題の設定やそのことの意識化を図る必要がある。

イ 望ましい姿の探求について

設問③、④において、「そう思う」、「ややそう思う」と回答した割合は、それぞれ 94%、91%であったが、設問⑤においては 82%と比較的低かった。このことから、道徳科において他者理解や人間理解を深めている一方で、学び合いを通して道徳的価値について考えるよさを感じられていない場合があると考えられる。その要因として、人によって考え方や感じ方は違うことに気付きながらも、そのことを自らの考えと比較したり新たな考えに生かしたりすることができていないことが考えられる。そのため、人としての望ましい姿を多面的・多角的に探求できるような学び合いを促進する必要がある。また、設問④において、「そう思う」と回答した割合は 4 割に満たなかったことから、道徳的实践を阻む人間の心の弱さを理解し、その上で道徳的实践を支える考えについて探求できるようにする必要がある。

ウ 道徳的価値の主體的な自覚について

設問⑥、⑦において「そう思う」と回答した割合が、それぞれ 85%、91%に上った一方で、設問⑧において同じように回答した割合は 56%にとどまった。このことから、児童は道徳を学習することが自分や社会にとって意味があることであると感覚的に捉えながらも、学んだことを自己のよりよい生き方の実現に生かして考えることができていない場合があると考えられる。その要因として、道徳的価値は生きる上で大切であると理解しながらも、自分がよいと思ったことをどのような考えを支えに実現していくか、どのような場面で発揮していったらよいのかといったことを明確にできていないことが考えられる。そのため、道徳的価値を自らとの関わりで捉え、新たな道徳的価値観の形成を自覚できるようにする必要がある。

以上のような課題は、教師が毎時間の授業を単発的に捉えて構想しているために、児童が内容項目相互の関連性や、学年段階ごとの発展性に気付いたり、問題を自らの日常生活に結び付けながら多面的・多角的に探求したりすることが十分ではなかったからではないかと考える。そこで、年間指導計画と 1 単位時間の学習指導過程について、「問題意識の焦点化」、「望ましい姿の探求」、「道徳的価値の主體的な自覚」の視点から次のような工夫を行うことにした(図 2)。

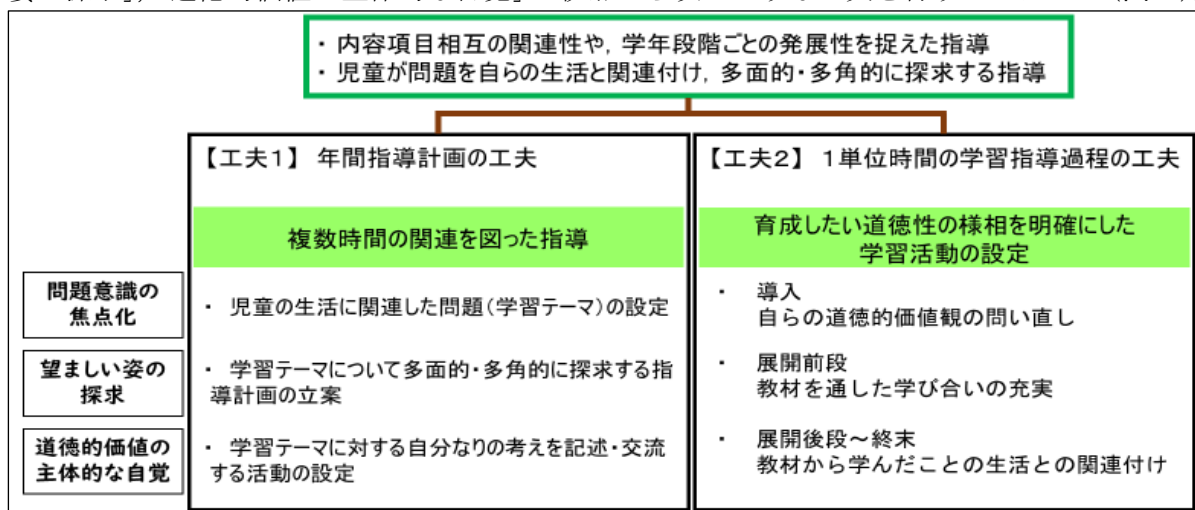


図 2 研究の構想

3 主体的に自己の生き方についての考えを深める児童を育成する道徳科の授業づくり

(1) 【工夫1】年間指導計画の工夫

ア 基本的な考え方

児童が主体的に自己の生き方についての考えを深めるためには、自らの問題を明確にして継続的、発展的にそのことについて考えるとともに、授業を通して形成した道徳的価値観を自覚できるようにする必要がある。このことについて、解説²⁾は、年間指導計画作成上の創意工夫と留意点において、「道徳科においては、一つの主題を1単位時間で取り扱うことが一般的であるが、内容によっては複数の時間の関連を図った指導の工夫などを計画的に位置付けて行うことも考えられる。」とし、「重点的な指導を行う内容を複数の教材による指導を関連させて進める方法」などが考えられるとしている。また、田沼¹⁾は、児童が学習課題を明確にし、このことについて複数時間扱いで授業展開するパッケージ型ユニットによる道徳科の授業づくりを提唱している。このような学習プロセスについて、「児童の道徳的課題解決において実効性が高まると判断された際に、学期の中で何箇所かこのユニットを意図的に設定することで大きな指導効果を期待しようとする教授・学習方法論である。」と述べている。

これらのことから、複数時間の関連を図った指導を年間指導計画に取り入れ、児童の問題意識や発達の段階、時期的特性を考慮した課題（児童にとっては学習テーマ）を設定し、これについて多面的・多角的に探求するための主題及び教材を選択して構成した指導計画を立案することにした（図3）。なお、以降の説明における具体例は、全て図3の複式5・6年の指導計画を実施した際のものである。

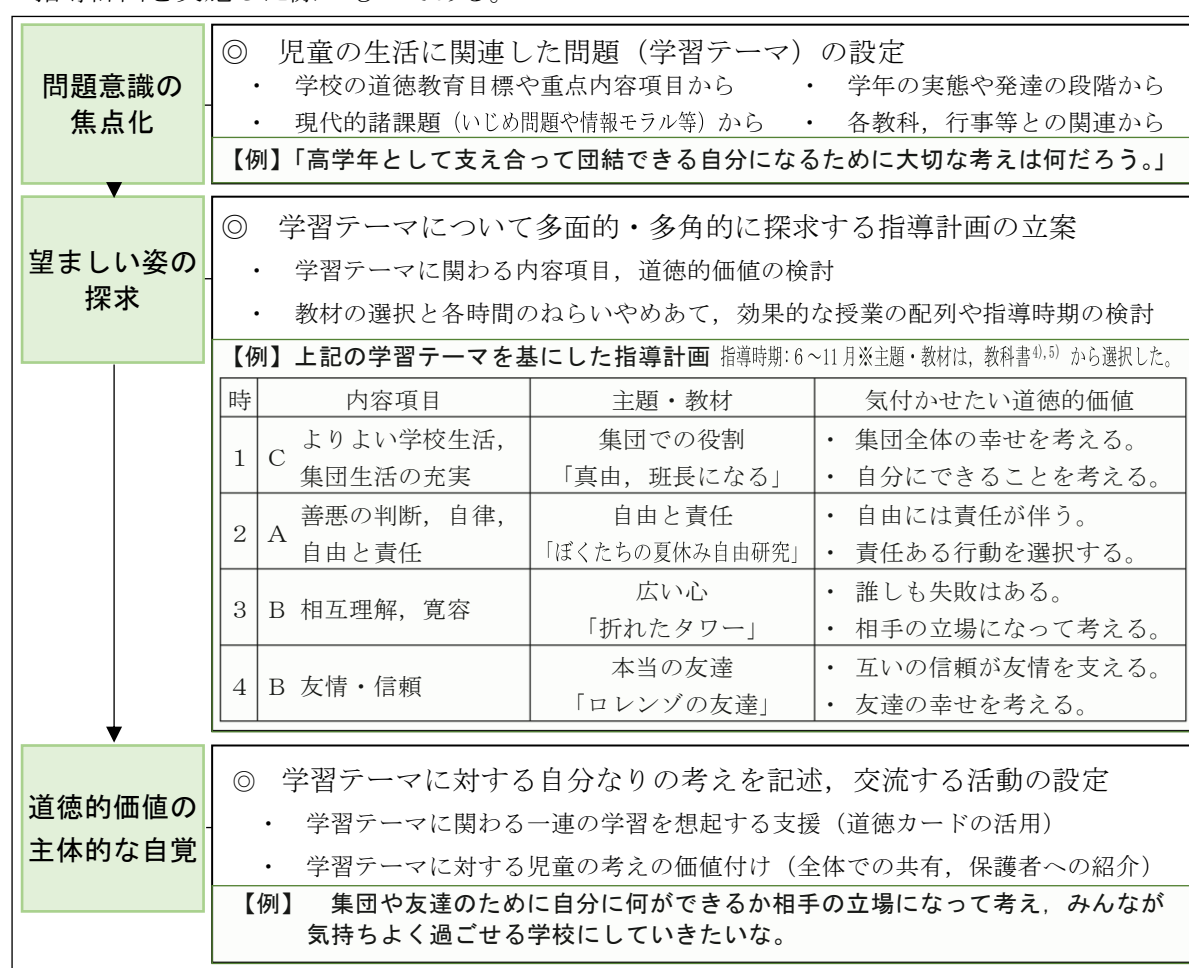


図3 複数時間の関連を図った指導計画の概要と設定例（複式5・6年）

4) 佐々木秀樹（2021）『小学道徳 生きる力5』 日本文教出版

5) 佐々木秀樹（2021）『小学道徳 生きる力6』 日本文教出版

イ 問題意識の焦点化

児童が、よりよい生き方を実現していくための自らの問題に気付き、授業で学んだことを自己の生き方に価値付けて主体的に捉えることができるようにするために学習テーマを設定する。学習テーマは、児童の生活に関連した問題を含むものであり、複数時間の関連を図った指導の柱となる。学習テーマの設定に当たっては、教師が児童に考えさせたいことを明確にするとともに、児童にとって共通の問題意識をもつことができるようなものであることが大切である。このことから、学校の道德教育重点目標や重点内容項目、学年の実態や発達の段階を踏まえて設定したり、教育活動全体を通じて道德性を養うため、各教科や行事等と関連付けて設定したりすることが考えられる。また、いじめや情報モラルといった、児童を取り巻く現代的な課題に基づいて設定することも考えられる。そして、このような観点から設定する学習テーマが、児童にとって自分と関わりがあり、探求していくべきものであると受け止められるようにするため、児童と共に学習テーマを設定したり、教室に提示したりするなどして意識付けを図るようにした（図4）。

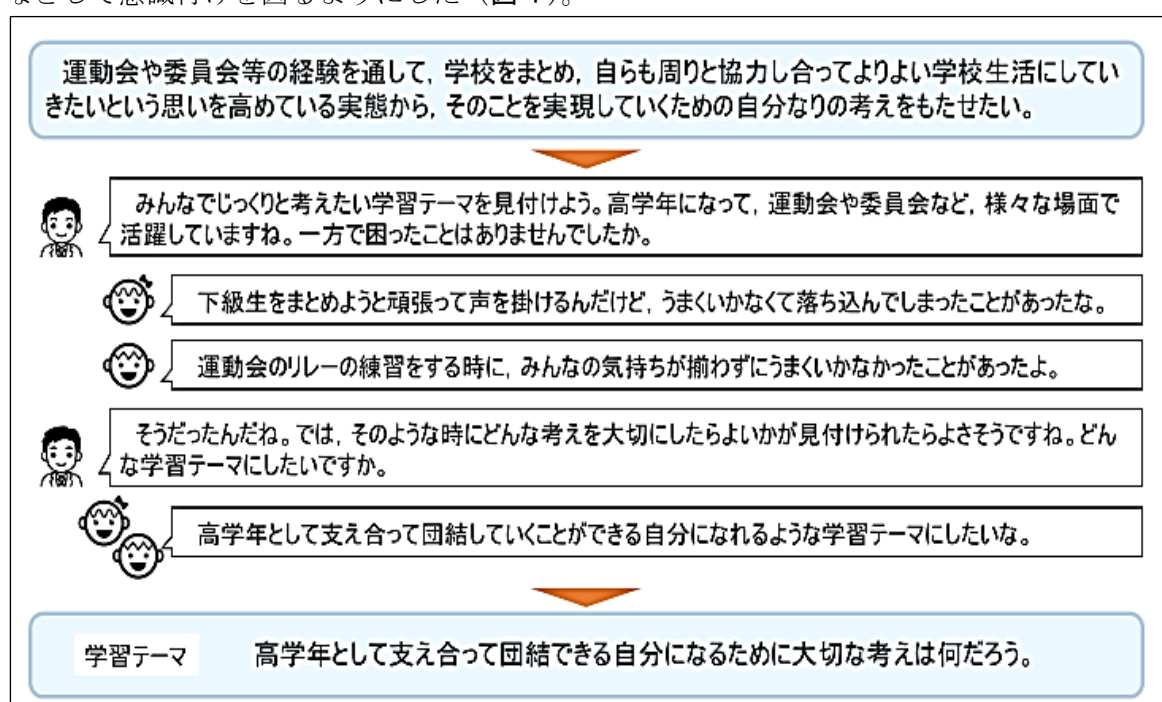


図4 児童と共に学習テーマを設定する様子

ウ 望ましい姿の探求

児童が学習テーマについて多様な内容項目や道德的価値から捉えたり、学びを蓄えたりして多面的・多角的に探求することができるように、複数時間の関連を図った指導の計画を立案する。まず、学習テーマに関連が深いと考える主題及び教材を教科書から複数選択し、配列する。その際、学習テーマに関わる内容項目や道德的価値の検討を行う。例えば、学習テーマについて異なる内容項目を関連付けて指導することや、特に関わりの深い同一の内容項目を重点化し、それに関わる道德的価値を段階的に指導することが考えられる。それから、各時間のねらいを明確にするとともに、適切な主題及び教材の選択、効果的な授業の配列、指導時期の検討を行っていく。

このように複数時間の関連を図ることは、教師や児童が、各時間で扱う内容項目及び道德的価値の関連性や発展性をより意識的に捉えることにつながると考える。内容項目とは、道德教育の目標を達成するために指導すべき道德的価値を含む内容を学年段階に分けて示したものであり、A～Dの四つの視点から分類整理されている。このことについて、解説²⁾は、「内容の全体構成及び相互の関連性と発展性を明確にしている。」と示しており、さらに、「内容項目は、関連的、発展的に捉え、年間指導計画の作成や指導に際して重点的な扱いを工夫

することで、その効果を高めることができる。」としている。よって、相互の授業を関連付けた指導を行うことは、児童の道徳性をよりよく養うことにつながる。また、道徳的価値とは、「よりよく生きるために必要とされるものであり、人間としての在り方や生き方の礎となるもの」²⁾であり、授業を実施するに当たっては、当該学年の内容項目にどのような道徳的価値が含まれているかを分析し、本時に理解させたいことを明確にする必要がある。つまり、同じ内容項目の授業であっても、既習内容、児童の実態や発達段階、教材の特徴等によって、ねらいとする道徳的価値は毎時間変わること留意して授業づくりを行い、本時がこれまで指導してきたこととどのように結び付いていて、次時以降にどのようにつながっていくのか見通しをもつことが重要である。複数時間を関連付けることは、このような指導の意図をより明確にし、その結果として児童は自らの問題について毎時間の授業の相互のつながりを意識しながら多面的・多角的に探求できるようになるものとする。

さらに、学習テーマについて多面的・多角的に探求する指導計画を立案することは、児童が、各時間で一貫した問題意識を継続し、多面的・多角的な見方・考え方を発揮することにつながる。つまり、複数時間の学習を通して学習テーマに対する自分なりの考えをじっくりと深めていくとともに、各授業においては、これまで学んできたことを生かして発展的に捉えようとする意識を高めることができるものとする（図5）。

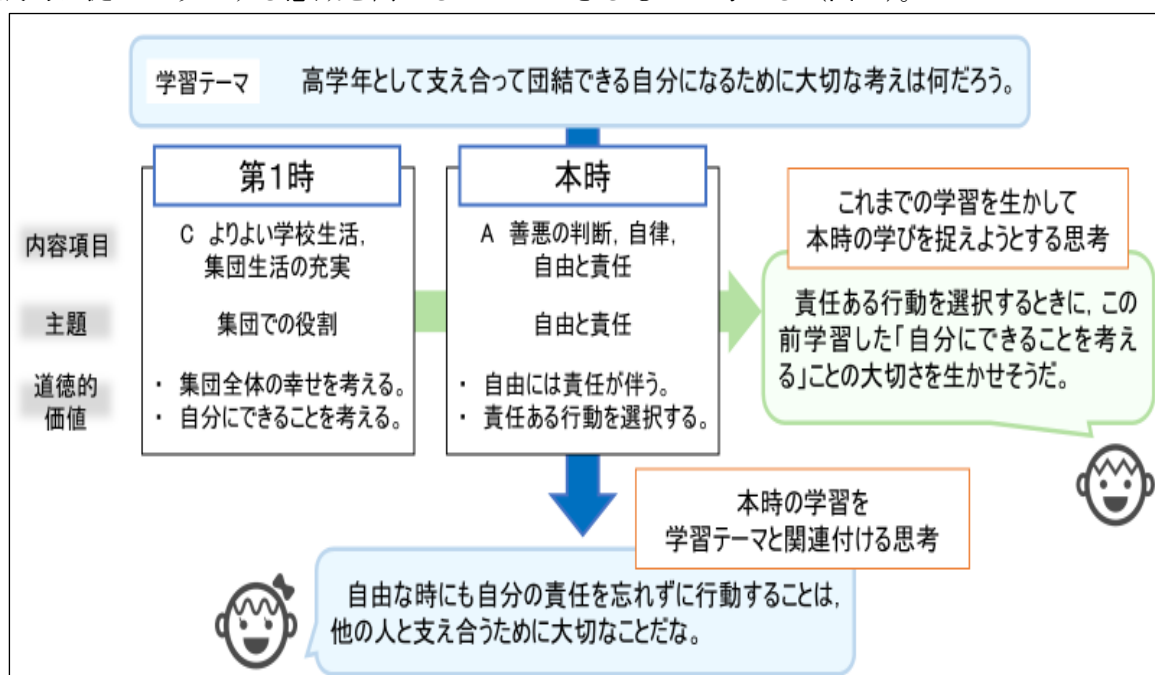


図5 授業における児童の思考の仕方

図5の矢印が示すような二つの思考を往還させながら学ぶことは、自らの問題を多面的・多角的に探求することにつながる。表3は、図3に例示した指導計画を実施した際に、ある児童が記入したものである。第1時の記述から、本時に学んだことを学習テーマと関連付けて、自分なりに目指したい姿をイメージしていることがうかがえる。また、第2時の記述からは、自由と責任について考えたことを第1時で記述した「人を気遣う」ことに結び付け、より具体的に捉えようとしていることがうかがえる。

表3 授業終末における児童（5年）の記述例

授業	児童の記述
第1時	これから、高学年として役割を果たさないといけないとき、下級生への思いやりや「気持ちを一つに」ということを考えていきたい。いつでも人を気づかえるようになりたい。
第2時	（自由に過ごすときは）自分のことも大切だけど、みんなといっしょに過ごしていることを忘れずに、周りの人のことを考えて話したり、活動したりする気づかいが大切だと思った。

エ 道徳的価値の主體的な自覚

自らの新たな道徳的価値観の形成を自覚し、自己の成長を実感することができるようにするために、学習テーマに対する自分なりの考えを記述、交流する活動を設定する。その際、学習テーマに基づく一連の学習の終末において学んだことの振り返りを促し、毎時間の学習を生かして自分なりの考えをもち、そのことの価値付けを行うようにする。そこで、これまで学習してきたことの想起を支援するために道徳カードを活用した（写真1）。これは、児童が各授業で考えたことや学んだことを記入してきたもので、毎時間分をつなげていつでも学んだことを振り返ったり、自らの考えを展望したりすることができるようにした（図6）。また、各授業の板書を提示したり、児童同士で学習テーマについての考えを交流する場を設定したりした。さらに、記入後に自分の考えを紹介し合うことで、自己の考えを明確にしたり新たな課題に気付いたりできるようにした。



写真1 道徳カードを活用した振り返りの様子

表4は、ある児童が記述した学習テーマに対する考えである。第1時から第4時にかけては、各時間に学んだことをこれまでの自分の経験と重ねて考えたり、学習テーマを踏まえて捉えたりしていることがうかがえる。また、4時間の授業を通して「人の気持ちを考える」ことの大切さに気づき、目指したい姿を考えていることがうかがえる。

Q 問題 は ?		よりよい自分へ 今までの自分、これから自分
めあて		
	♡ 大切な心は?	
考えたこと		
先生から		☐ これまでの自分はどうかだったかな。 ☐ 新しく気づいたことはなんだろう。 ☐ ○○な自分になれたらいいな。 ☐ 実際は○○が難しそうだ。 ☐ ○○な気持ちを乗り越えられたらいいな。 ☐ ○○な気持ちを大切にしたいな。 ☐ ○○な気持ちも大切だと気づいた。 ☐ 同じような場面で○○できたらいいな。 ☐ 〇で 〇だから 〇けど 〇だけど

図6 道徳カード

表4 学習テーマに対する児童（5年）の考えの例

学習テーマ		高学年として支え合って団結できる自分になるために大切な考えは何だろう。
各時間の振り返り	第1時	はらが立つときもあるけど、人のことを考えて行動できるようになれたらいいなと思った。
	第2時	自由なときにも、責任があることが分かった。しないといけないことをする責任や、自分がどうしたらよいかを自分で考える責任がある。
	第3時	今までよりももっとみんなにやさしく接して、みんなも自分もすっきりするようにしたい。けんかをしたりイライラしたりしていても、その人と自分を重ねて発言する。
	第4時	自分も友達も信頼し合うことで、おたがいによく笑い合えると思う。だから、その人ともっといっしょにいたくと思う。
4時間を通して		支え合って団結できる自分になるには、人の気持ちを大切にすることが大切だと思った。人のことを考えた上で行動できる自分になれたらいいなと思う。人の気持ちを考えてその人のお手伝いをしたら、役に立てて喜んでもらえる。そうすればもっと信頼し合える。

オ 指導計画の例

(ア) 本校の重点内容項目を踏まえて学習テーマを設定した指導計画 ※主題・教材は、教科書⁶⁾から選択。

学習テーマ「みんなと気持ちよくすごすために大切なことって何だろう。」(1年)				
授業の構成	時	内容項目	主題・教材	気付かせたい道徳的価値
	1	A 規則の尊重	きまりについてかんがえよう 「どうしてかな」	- 生活の中にはきまりがある場面がある。 - きまりに気を付けて過ごそう。
	2		みんなでつかうもの 「そろっているけど」	- きまりを守るとみんなが気持ちよく過ごせる。 - 使った後はしっかり片付けよう。
	3		すこしぐらい 「おおひとやま」	- 自分勝手はよくない。 - きまりは一人一人が守ることが大切だ。
考えの記述		みんなで気持ちよく過ごすために大切にしたい考えについて記述し、交流する。		
計画の意図		本校が低学年の重点内容項目とする、「規則の尊重」を基に学習テーマを設定した。授業を構成するに当たって、内容項目に関わる道徳的価値を段階的に理解し、考えを深めることができるようにした。具体的には、第1時で身の回りにはきまりがあることを理解できるようにし、第2時では、そのことが私たち一人一人の気持ちよい生活を支えていることを理解できるようにする。その上で、第3時ではきまりを守らないとどうなるのかを考えられるようにする。 最終時において、進んできまりを守ろうとする心を支える考えについて、それまでに学んだことを生かして多面的・多角的に見いだせるように配列した。		

(イ) 現代的諸課題を踏まえて学習テーマを設定した指導計画 ※主題・教材は、教科書^{7),8)}から選択。

学習テーマ「いじめをなくしていくために大切な考えは何だろう。」(3・4年)				
授業の構成	時	内容項目	主題・教材	気付かせたい道徳的価値
	1	A 善悪の判断, 自律, 自由と責任	正しい勇気をもって 「遠足の朝」	- 独りぼっちを放っておけない。 - 自分が正しいと思うことをできると、気持ちいい。
	2	B 相互理解, 寛容	相手のことを考えて 「ちこく」	- どんな時も仲間外しはよくない。 - 相手の気持ちや事情を理解しようとする気持ちが大切だ。
	3	C 公正, 公平, 社会正義	なかまをたいせつにするとは 「同じなかまだから」	- 一人一人の存在を大切に考える。 - 相手の立場に立ち、それぞれが納得できるように考える。
	4	D 生命の尊さ	たいせつな命 「助かった命」	- 私たちの命は支え合っている。 - 私自身も他の命とつながる一員として一生懸命に生きる。
考えの記述		いじめをなくしていくための大切な考えについて記述し、交流する。		
計画の意図		喫緊の課題であるいじめ問題を取り上げ、学習テーマを設定した。授業を構成するに当たって、学習テーマを様々な内容項目から捉え、多面的・多角的に問題を見つめることができるようにした。具体的には、多様な内容項目を視点にして人間関係の在り方や個々の尊厳について考え、いじめが許されないものであることには様々な理由があることを理解できるようにする。さらに、そのことを通じていじめを許してはならないという気持ちを高め、いじめをなくしていくための考えを、児童が協働して見いだせるようにすることをねらいとした。 各授業でねらいとする内容項目を視点A「主として自分自身に関すること」から順に配列し、自分との関係性が近く実感を伴いやすいものから扱うようにした。		

6) 佐々木秀樹 (2021) 『しょうがくどうとく いきるちから1』 日本文教出版

7) 佐々木秀樹 (2021) 『小学どうとく 生きる力3』 日本文教出版

8) 佐々木秀樹 (2021) 『小学どうとく 生きる力4』 日本文教出版

(2) 【工夫2】1単位時間の学習指導過程の工夫

ア 基本的な考え方

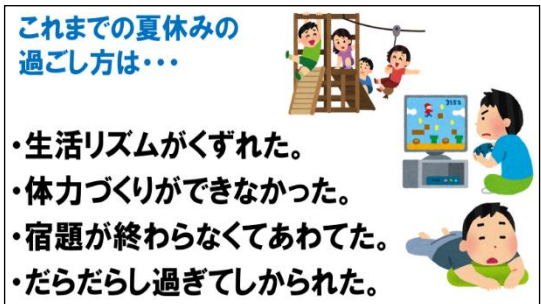
児童が主体的に自己の生き方についての考えを深めるためには、道徳科の年間指導計画や複数時間の関連を図った指導計画の立案といった、中、長期的な見通しをもって学習指導を行うとともに、毎時間の授業においてもそのことを意識した指導が必要である。その際、教材と児童の生活を結び付けるために、道徳的価値を生活において実現していくことを支える、道徳性の諸様相を意識した指導が大切であると考えた。道徳性の諸様相について、解説²⁾には、「道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり、道徳教育は道徳性の諸様相である道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲と態度を養うことを求めている。」、「一人一人の児童が道徳的価値を自覚し、自己の生き方についての考えを深め、日常生活や今後出会うであろう様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質を意味している。」と示されている。つまり、道徳性の諸様相の育成をより意識した指導を行うことで、児童は、教材を通して考えたことを自分事として捉え、生活に生かしていくために大切にしたい考えをもったり、道徳的価値の実現に向けて見通しをもったりすることができる考える。

このようなことから、研究の各視点について手立てを検討し、授業で重点的に指導する道徳性の様相を明確にして学習活動の設定を行うことにした。

イ 問題意識の焦点化

道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止めることができるようにするため、導入において自らの道徳的価値観を問い直すことを促し、学習への必要感を高めるようにする。すなわち、児童が本時のねらいとする道徳的価値について関心を高め、これまでの生活や学習してきたことを振り返り、「確かにこれは問題だ。」といった思いから問題意識を焦点化することのできる手立てが必要である。具体的には、道徳カードを用いたこれまでの学習の振り返りや、主題の提示、身近な道徳的場面や実態調査から問題に気付くことができるようにする。例えば、資料1は、6ページの図3で示した指導計画における第2時、主題名「自由と責任」の導入で児童に提示した実態調査の結果である。7月に実施する授業であることや教材で取り上げられている場面を踏まえて調査した設問「夏休みの過ごし方で失敗した経験がありますか。」の回答結果を提示し、「自由な時間を気持ちよく過ごすためには、どんな考えが大切なのだろう。」といった問題意識の焦点化を図った。

資料1 夏休みの過ごし方の課題を基にした問題意識の焦点化



ウ 望ましい姿の探求

児童が多様な意見に触れながら、よりよい自己や社会の実現を目指す人としての在り方について考え、そのことを基に自らの考えや課題を明確にできるようにするため、展開前段において教材を通した学び合いを促す。教師が教材を活用して指導することで、児童は伸び伸びと考えたり表現したりして人としての在り方を探求し、このことによって自分の課題に気付くことができる。道徳科における教材の活用について、赤堀⁹⁾ (2018) は、「登場人物への自我関与を深めることで児童は自ずと自分事として考えるのである。」と述べている。例えば、道徳的場面において葛藤する心情を思い浮かべる際、児童は自ずと自分の経験を振り返りながら考えているが、登場人物の心情として捉えることで、人の心の弱さに関わるような心情も臆することなく表現することができる。このことから、登場人物への自我関与を促したり、

9) 赤堀博行(2018)「道徳授業における 教材活用に関わる一考察」日本道徳教育学会『道徳と教育 336号』

教材で扱われている状況を自分事として想像できるようにしたりすることで、児童は自らを振り返り、自分のよさや課題を明確にすることができると考える。さらに、このようにして思考したことを交流することで、自分とは違った道徳的価値観に出会い、他者の価値観を理解し、自分の考えをはっきりと認識できるものと考ええる。

そこで、望ましい姿の探求に当たっては、ホワイトボードを活用するなどして、互いの考えを共有したり練り上げたりする活動を設定し(写真2)、次のような姿が見られるよう意図的に働き掛けたり価値付けたりするようにした。



写真2 話し合いの様子

- (ア) 社会に生きる人間としての在り方や、道徳的価値の意義や大切さを理解している。
- (イ) 道徳的価値に対する多様な見方・考え方の理解を通して自己を見つめ直している。
- (ウ) 伸ばしたい自己に気付いている。

エ 道徳的価値の主體的な自覚

自己のよりよい生き方を支える考えを自覚し、道徳的価値の実現に向けて主体的に判断することができるようにするため、展開後段から終末においては、教材から学んだことを身近な生活場面に生かして考えることや、自己の成長や次時につながる新たな課題への気付きを促すようにする。そこで、学んだことをこれからの生き方にどのように生かすかを考えたり、授業を通した考え方の変容や新たな気付きを自覚したりできるようにした。具体的には、教材に類似した生活場面の想起や役割演技、本時に学んだことから自分が感じたことの交流を促し、これまでの自分の課題やこれからの自己の生き方について記述するように働き掛けた。例えば、資料2のように教材と類似した生活場면을提示し、「遠足で、待ちに待った自由活動の時間になりました。どのような考えを大切にして過ごしたらよいだろう。」と問うことで、児童は教材から学んだ「自由な時には、どう行動したらよいかを自分自身で考える責任がある。」ということを実際の生活と重ねて考えるべき事項を具体的にイメージし、自覚できるようにした。

資料2 教材と類似した生活場면을提示したスライド画面



オ 1 単位時間の学習指導過程の構想例

(ア) 授業(図3の第3時)の概要

a ねらい

「B 相互理解、寛容」について、誰にでも失敗があることを理解し、感情的になることなく広い心で許そうとする道徳的判断力を育てる。

b 教材のあらすじ「折れたタワー」

ある日、主人公のひろしは給食当番であるにも関わらずマスクを忘れてしまい、一緒に牛乳を運ぶ係であったのりおに激しく責められる。数日後の掃除時間に、のりおはひろしの自信作であった図工の作品を誤って壊してしまう。ひろしの心に給食の時間に叱責されたくやしい思いがよみがえりながらも、「今ののりおは、あのときのぼくと同じだな。」という気持ちから、のりおに「わざと落としたんじゃないだろう。しかたないさ。」と言う。

c 道徳性の諸様相の育成に当たって

道徳的判断力とは、「それぞれの場面において善悪を判断する能力」²⁾のことである。そこで、相手の過ちに対してどのように考え、対処することが望ましいのか、相手の立場やその後の影響について思いを巡らせながら考えることができるようにした。

(イ) 実際

a 問題意識の焦点化

道徳的実践を阻む人間の心の弱さに気付かせ、それを乗り越えてよりよい判断ができるようになりたいという気持ちを高めるために、自分の大切な物を壊された時の心情を想像させ、めあてをもてるようにする。そのために、身近な道徳的場面を想起しやすい資料を提示し、教師とのやり取りの中で自分の解決したい問題に気付けるようにする。

b 望ましい姿の探求

誰しも過ちを犯すことがあることを理解し、相手の過ちを広い心で受け止めることの大切さに気付けるようにするために、主人公が怒りの感情を乗り越え、許す判断ができたのはどのような考えからか話し合う。その際、主人公が忘れ物をして叱責された時の気持ちに十分共感させ、それでも広い心で相手を許した心の強さがどのような考えによるものなのかを多様に考えられるようにする。

c 道徳的価値の主體的な自覚

教材から見いだしたことを自らの生活と結び付けて考えることができるようにするために、導入で提示した場面を再度取り上げ、どのように判断し、何と声を掛けるか話し合う。その際、初めに自分が許せないと思ったのはなぜかを振り返らせ、自分も主人公のように判断できるようになるためにはどんな考えを大切にしたいかや、実際の場面で相手にどのように声を掛けるかを考えるようにする。そして、互いの意見を紹介し合い、考えを深め合うようにする。

以上を踏まえて、表5のような授業展開例を考えた。

表5 道徳的判断力の育成を重視した授業展開例

視点	発問及び児童の反応 ※T：教師，C：児童
問題意識の焦点化	T：（資料3の提示）このようにとき、自分だったらどうするかな。 C：怒って許せないと思う。 T：先生も許せないかもしれない。でも、わざとではなく、相手が落ち込んでいたらどうする。 C：それなら許してあげた方がいいのかも。 T：どうして許そうと思うの。 C：かわいそうだから。 T：でも、自分の大切な物だったら許せるかな。どんな考えがあれば許せるだろう。 相手を許すために大切な考えは何だろう。
望ましい姿の探求	T：（あらすじの説明）主人公は、大切な物を壊された時どうしたでしょう。その時どんなことを考えていたでしょう。想像しながらお話を聞きましょう（教材の範読）。 T：主人公は、忘れ物をしてしまった時、どう思っていただろう。 C：しまったと思っていたと思う。相手に迷惑をかけてしまうと思って申し訳ない気持ちになっていたんじゃないかな。 T：みんなも忘れ物をした時、同じような気持ちになったことがあるのかな。そんな気持ちになっている時、主人公はすごく責められていたよね。どう思っていただろう。 C：ただでさえ忘れ物をして落ち込んでいるのに、あんな風に責められたらもっとつらくなると思う。 T：みんなにも主人公の気持ちが分かるんだね。それから数日後に事件が起きます。忘れ物を責めた相手が、主人公の大切な作品を壊してしまいました。 主人公は大切な物を壊されてどう思ったのでしょうか。 C：すごく腹が立ったと思う。 C：「忘れ物をした時あんなに責めていたのに」って思ったと思う。 T：そうだよね。頑張って作った作品を壊されたんだからね。でも、主人公は相手を許したよ。どんなことを考えて許したのだろう。道徳カードに考えを記入して班で話し合いましょう。 C：自分が失敗した時のことを思い出して、あんなつらい思いをさせたくないと考えたのではないかな。
道徳的価値の主體的な自覚	T：もし、あなたが、主人公と同じような場面に出会ったらどうするだろう。授業の始めに考えたことをもう一度考えてみよう。あなたの大切な物を壊してしまい、しょんぼりしている相手に、どんな考えで何と伝えるかな。道徳カードに書いて班で紹介し合いましょう。 C：悲しいと思うけど、相手もきっとつらいだろうと思うから、「気にしないで。」って言えたらいいな。

4 検証授業による研究の検証

これまで述べた主体的に自己の生き方についての考えを深める児童を育成する道徳科の授業づくりの工夫に基づいて、本校3・4年複式学級16人を対象とした検証授業を実施した。各工夫に関する検証の視点は、表6のとおりである。

表6 検証の視点

工夫	検証の視点
年間指導計画の工夫	複数時間の関連を図った指導によって、児童が自らの問題に対する考えをもつことができるか。
1単位時間の学習指導過程の工夫	育成したい道徳性の様相を明確にした学習活動の設定によって、児童が学習することを自らの生活と結び付け、道徳的価値を自分との関わりで捉えることができるか。

- (1) 【工夫1】年間指導計画の工夫の実際 ※ 主題・教材は、教科書^{7),8)}から選択。

学習テーマ「みんなのことを思いやる自分になるために大切なことは何だろう。」				
	時	内容項目	主題・教材	気付かせたい道徳的価値
授業の構成	1 6月	B 親切、思いやり	思いやりをもって「おじいちゃんとの楽しみ」	- 思いやりはみんなを幸せにする。 - 様々な相手に思いやりをもって行動すると、みんなが温かい気持ちで過ごせる。
	2 本時Ⅰ		相手を思いやる心「バスの中で」	- 進んで親切にすると気持ちがよい。 - 相手の気持ちを自分のことのように想像すると行動に移すことができる。
	3 本時Ⅱ		思いやる心「三つのつつみ」	次に使う人のことを想像すれば、たとえ目の前に相手がいなくても思いやる心をもつことができる。
	4 本時Ⅲ	B 友情、信頼	友だちの気持ちになって「たつきゅうは四人まで」	- 自分の言動が相手をどのような気持ちにさせるか考えることが大切だ。 - 相手の気持ちを考えると信頼が深まる。
考えの記述	みんなのことを思いやることのできる自分になるために大切にしたい考えについて記述し、交流する。			
計画の意図	本校では、思いやりの心の育成を道徳教育重点目標として重点化していることから学習テーマを設定した。本学級の児童は、正義感や責任感があり正しいことを進んで行おうとする一方、自分本位の考えや相手への配慮を欠いた言動により良好な関係を築けない様子も見られる。そこで、第1～3時では、内容項目「親切、思いやり」を扱い、様々な状況にある他者に対して思いやりの気持ちをもって行動することの大切さを発展的に理解できるようにした。そして、第4時に内容項目「友情、信頼」を扱い、友達と信頼関係を構築するために大切な考えを、第1～3時で学んだことを生かして理解できるようにした。			

(2) 【工夫2】 1 単位時間の学習指導過程の工夫の実例

ア 本時Ⅰ（第2時）について

(ア) 授業の概要

実施日	7月2日実施		
内容項目 主題名	B 親切, 思いやり 相手を思いやる心	教材名	バスの中で（3年生教材）
ねらい	相手のことを思いやることの大切さを理解しながらも、なかなか行動に移すことができないときの気持ちを考えることを通して、それを乗り越え進んで親切な行いをしようとする道徳的実践意欲と態度を養う。		
教材の あらすじ	主人公の「わたし」がバスに乗っていると、一人のおばあさんが乗車する。空席はなく、わたしは席を譲ろうと考えるが、なかなか声を掛けられないでいる。心の中で「譲る」「譲れない」の二人のわたしが争う最中、バスが揺れる。おばあさんがよろめく姿を見たわたしは、「ここへ座ってください。」と自然にはっきりとした声で伝えていた。		
道徳性の諸様 相の育成に当 たって	本時は、道徳的態度の育成を重視して指導を行う。そこで、進んで親切を行う行為を支える考えに気付く、「自分だったらこんなふうに行動できたらいいな。」といった、道徳的価値の実現に向けたイメージをもつことができるようにする。		
過程	主な学習活動（丸数字は写真3に対応。枠内は道徳的実践意欲と態度の育成を重視した発問。）		
問題意識 の焦点化	導入	① 学習テーマを確認する。 ② 前時を振り返り、本時の主題を確認する。 ③ 本時のめあてを立てる。	
望ましい姿の探求	展開前段	④ 教材「バスの中で」を読み、主人公の心情を想像することを通して、相手を思いやる心について話し合う。 主人公が「この席どうぞ。」と声を掛けることができないのは、どんな気持ちからだろう。 主人公にどんなアドバイスをしたらおばあさんに席を譲ってあげることができるだろう。	
道徳的価値の 主体的な自覚	展開後段	⑤ 教材と類似した生活場面から、自分が大切にしたい考えをもち、どのように行動したらよいか話し合う。 もし、自分が主人公と同じような場面に出会ったら、どんな考えをもって行動しますか。	
	終末	6 本時に考えたことや気付いたことを自らの生活と関連付け、自分なりの考えを道徳カードに記述し発表し合う。 7 教師の説話と次時の予告を聞く。	

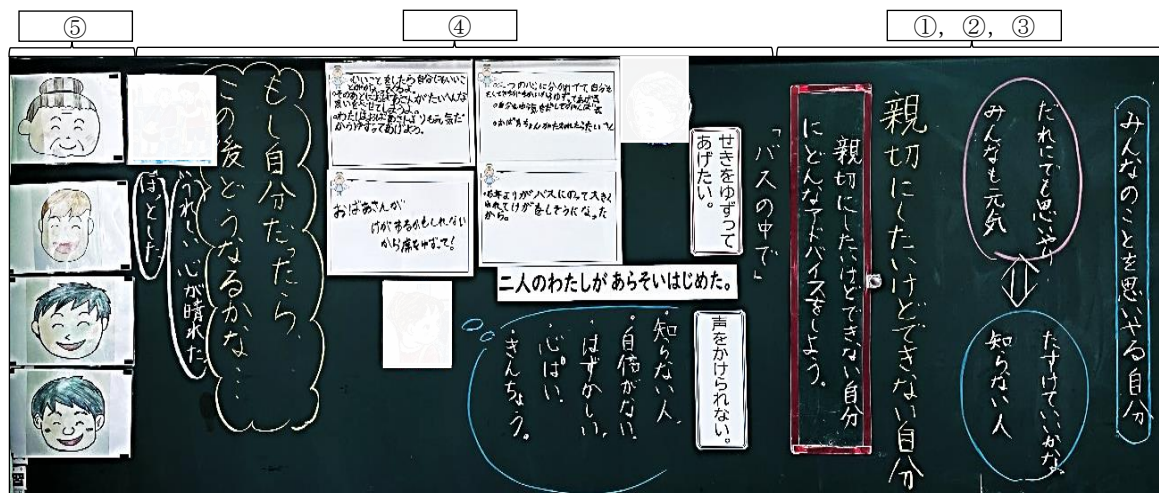


写真3 本時Ⅰの板書

(イ) 問題意識の焦点化について

「親切、思いやり」の大切さを理解しつつも、時として行動できない自分に気付くことができるようにするため、前時の振り返りを示した後、思いやりをもつことは素晴らしいことだがいつも行えているだろうかと問い掛け、問題意識の焦点化を図った。

T： どんな学習テーマを立てましたか（学習テーマを確認）。

この前の時間は様々な相手に思いやりをもつことの大切さについて考えましたね。こんな振り返りを書いていた友達を紹介します（資料4を提示）。

様々な相手に思いやりをもつと、みんなを元気にできるんですね。みんなは様々な相手に思いやりをもったり親切にしたりできていますか。

C： この間、けがをした人を保健室に連れて行ったよ。

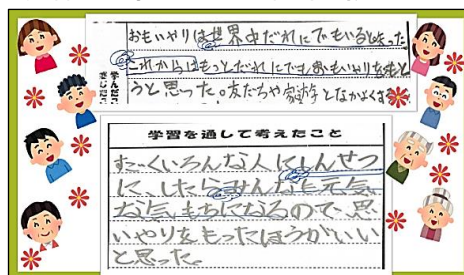
T： 感心でしたね。では、もし、下校中にこんなおばあさんに会ったらどうしますか（資料5を提示）。

C： 知らない人だと親切にできないかもしれない。

C： 私は助けてもいいのか迷うと思う。

T： そうなんだ。でも、知らない人にも進んで親切にできたらいいよね。親切にしたいけどできない自分が心の中に出てきたとき、「よし、親切にしよう。」と思えるアドバイスはないかな。

資料4 導入で用いた前時の振り返り



資料5 問題提起に用いた絵



(ウ) 望ましい姿の探求について

登場人物への自我関与を促すため、教材の範読前にあらすじを紹介するとともに、主人公が置かれた状況をイメージできるように満員のバスの車内の様子を提示した。そして、進んで親切にする行為を支える考えについて、自らがもつ道徳的实践を阻む心と重ねて考えることができるようにするため、児童を教材に引き入れる発問を行った。

T： （バスの車内の様子を提示してあらすじを紹介）満員のバスだから、たくさんの人が乗っているね。席を譲れない主人公がどんなことを考えていたか想像しながらお話を聞きましょう。

T： 声を掛けられない主人公は、どんなことを考えていたのだろう（挙手による発表）。

T： 進んで親切にするのは、難しいときもあるよね。主人公の中で、「譲る」という考えと、「譲れない」という考えをもつ二人のわたしが争い始めます。その時、あなたたちが、心の天使になって「わたし」にささやくとします。何とアドバイスをすれば、主人公は「よし、親切にしよう。」と思えるかな（班での話し合い）。

(エ) 道徳的価値の主體的な自覚について

教材を基に考えたことを、身近な生活場面に生かして考えることができるようにするために、教材の類似場面を複数示し、自分がどのような考えを支えとしてどのように行動したらよいか考えるようにした。そして、道徳的行為を实践したときの清々しさを味わえるようにするため、教師と共に役割演技をしたり、親切にされて喜ぶ相手の顔を提示したりした（資料6）。最後に、学習を通して考えたことを記述し、交流する時間を設定した。児童は、自らの問題を基に本時の学びを捉え、これからの生活においてどのように実現していくかイメージを深めているようであった（表7）。

資料6 役割演技の様子



表7 終末における児童の記述

A児	相手がこまっているとき、自分の立場にたとえて考えたら自分にもきつい気持ちがかかるし、もっといろんな人に親切にしてあげたくなと思った。
B児	これから、「大変な思いをしてしまうよ。」「自分もうれしい気持ちになるよ。」と自分にアドバイスをして、こまっている人やたいへんそうな人のやくにたったり親切にしたりしてあげられるようにしたい。

イ 本時Ⅱ（第3時）について

(ア) 授業の概要

実施日	11月6日実施		
内容項目 主題名	B 親切, 思いやり 思いやる心	教材名	三つのつつみ（4年生教材）
ねらい	その場にはいない相手や次に使う人に対して思いやりの気持ちを持ち、進んで親切にしようとする道徳的心情を育てる。		
教材の あらすじ	冬山に登山中の二人の男、デルスウとアルセーニエフは山小屋にたどり着く。アルセーニエフが体を休めている間も、デルスウは薪を割ったり米や塩、マッチを包んで天井から下げたりと休もうとしない。アルセーニエフがデルスウにまた戻ってくるのかを尋ねると、「(薪や三つのつつみは) この山小屋へ来る人のためにつくったものです。」と答える。		
道徳性の諸様相の育成に当たって	本時は、道徳的心情の育成を重視して指導を行う。そこで、その場にはいない相手や次に使う人に対して思いやる心をもつことがなぜ大切なのか理解し、それを実現しようとする気持ちをもっている自分のよさに気付くことができるようにする。		
過程	主な学習活動（丸数字は写真4に対応。枠内は道徳的心情の育成を重視した発問。）		
問題意識 の焦点化	導入	① 学習テーマを確認する。 ② 本時の主題を確認し、前時の振り返りを行う。 ③ 本時のめあてを立てる。	
望ましい姿の探求	展開 前段	④ 教材「三つのつつみ」を読み、二人の主人公の心情を想像することを通して、思いやりをもって行動することのよさや意義について話し合う。 デルスウが次に山小屋を使う人のために準備をしていることを知ったアルセーニエフはどんなことを考えただろう。 もし、あなたが山小屋にたどり着いた時、「三つのつつみ」がなかったら、また、あったらそれぞれどんな気持ちになりますか。	
道徳的な価値の自覚	後展開 終末	⑤ 自分が、次の人のことを考えて行動した経験を想起し、交流する。 次の人のことを思いやって行動できたことがありますか。 6 本時に考えたことや気付いたことを自らの生活と関連付け、自分なりの考えを道徳カードに記述し発表し合う。 7 教師の説話と次時の予告を聞く。	

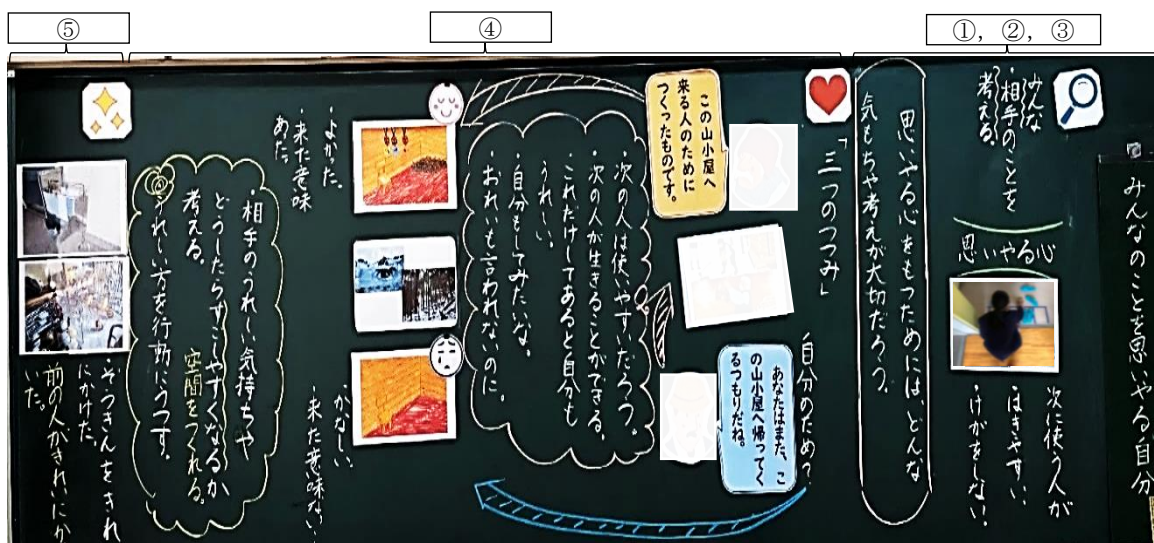
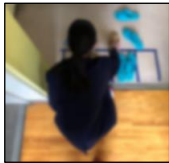


写真4 本時Ⅱの板書

(イ) 問題意識の焦点化について

「思いやる心」に対する学習前の道徳的価値観を確かめられるようにするため、道徳カードを用いてこれまでの学習の振り返りを促した。そして、これまでの学習との違いに着目できるように写真資料を提示し、問題意識の焦点化を図った。

T: どんな学習テーマについて考えていますか（学習テーマを確認）。	資料7 スリッパを並べる上級生
T: （主題を提示）「思いやる心」とはどんな心のことでしょう。	
C: （道徳カードを振り返って）相手の気持ちを考える心だと思う。	
T: （資料7を提示）トイレのスリッパを並べることは、思いやる心と関係があるのかな。	
C: 関係があると思う。上級生は「次に使う人が使いやすいように」、「けがをしないように」と、相手のことを考えて行動していると思う。	
T: でも、ここに困っている人はいないよね。困っている人がいないのに「相手のことを思いやる」とはどういうことなのかな。今日のめあてにしたいことが見付かりましたか。	

(ウ) 望ましい姿の探求について

道徳的価値に関わる場面への焦点化を図るため、教材の範読前にあらすじを紹介し、読みの視点をもてるようにした。そして、次に来る誰かのために行う行為も、これまでの「親切、思いやり」についての捉え方と同様に、相手の立場に立ってどのように行動したらよいかという考えに支えられていることに気付かせるため、主人公の心情について話し合う活動を設定した。さらに、道徳的価値を自分事として捉え、その大切さを実感できるようにするため、自分が山小屋を使用する際の心情について考えるように促した。その際、冬山登山の様子を話し聞かせ、自作の絵を用いて豊かな想像を促した。その上で、教材を通して学んだことを明確にするため、めあてについて問い掛けた。

T: （あらすじを紹介）アルセーニエフが、デルスウの行動をどう思っていたか考えて聞きましょう。	資料8 三つのつつみのない小屋とある小屋
T: デルスウが次に山小屋を使う人のために準備をしていると聞いて、アルセーニエフはどんなことを考えただろう（道徳カードへの記入、ペアで意見交換）。	
T: 想像してみましょう。あなたは今、冬山を登っています。雪が積もっている山道を歩くのはとても力がいらいます。それに寒くて寒くてたまりません。おなかも空いてきました。その時、一軒の山小屋を見付けました。『ああ、助かった。』あなたは、山小屋の扉を開けました。	
T: もし、あなたが山小屋にたどり着いた時、何も無い部屋だったらどのように感じるでしょう。	
T: もし、デルスウが三つのつつみを準備をしていた部屋だったら、どのように感じるでしょう。（資料8を提示）	
T: 思いやる心をもつためには、どんな考えや気持ちをもつことが大切だろう（班での話し合い）。	



(エ) 道徳的価値の主體的な自覚について

教材を通して学んだ道徳的価値が、身の回りでどのように実現され、自他の快適な生活を支えているかを考えられるようにするために、主人公のように行動できた経験を問い、資料9を例示して想起を促した。そして、自分にも「思いやる心」があることを喜び、その心に基づいて行動することのよさを感じ取ることができるようにするため、想起した経験やその時の気持ちを伝え合った。最後に、新たな道徳的価値観の形成を自覚できるようにするため、自己の生き方についての考えを記述する時間を設定した。児童は自らが大切にしていきたい考えをもち、その実現へ意欲を高めていた（表8）。

資料9 整理された体育倉庫等



表8 終末における児童の記述

C児	きたないところがあったり、使いにくいところがあったりしたら、（自分が使う時の）うれしい気持ちとかなしい気持ちを考えて、うれしい気持ちの方をじつげんして行って、みんなをいい気持ちにさせたい。
D児	今までは人の気持ちを考えることを意識をしていなかったけど、人がうれしく楽になるような行動をしてみたいと思った。

ウ 本時Ⅲ（第4時）について

(ア) 授業の概要

実施日	11月30日実施		
内容項目 主題名	B 友情, 信頼 友だちの気持ちになって	教材名	たつきゅうは四人まで (3年生教材)
ねらい	友達のことを大切にできないときの後ろめたさについて考え、友達と互いに信頼し、助け合おうとする道徳的心情を育てる。		
教材の あらすじ	しゅんと三人の友達が卓球をして遊ぶ約束をしているところに、とおるが「仲間に入れてくれないか。」と声を掛ける。しかし、ダブルスの試合をすることを理由に、しゅんは断る。その日の帰り、昨日とおるが自分を手伝ってくれたことを思い出して後ろめたさを感じていたしゅんは、とおるに謝り、卓球に誘うが、「卓球は四人までなんだろう。」と言って帰ってしまう。卓球をしている最中もしゅんたち四人はあまり楽しくない。次の日、四人は、とおるに謝り遊びに誘おうと、早めに登校してとおるが来るのをドキドキしながら待つのであった。		
道徳性の諸様 相の育成に当 たって	本時は、道徳的心情の育成を重視して指導を行う。そこで、友達のことを大切にできなかった際の相手の気持ちを理解することを通して、友達を大切にしようとする思いを膨らませ、よりよい友達関係を築こうと考え、行動することのよさを味わえるようにする。		
過程	主な学習活動(丸数字は写真5に対応。枠内は道徳的心情の育成を重視した発問。)		
問題意識 の焦点化	導入	① 学習テーマを確認する。 ② 本時の主題を確認し、実態調査から問題に気付く。 ③ 本時のめあてを立てる。	
望ましい姿の探求	展開前段	④ 教材「たつきゅうは四人まで」を読み、二人の主人公の心情を想像することを通して、友達とよりよい関係を築くための大切な考えについて話し合う。 とおるは、どのように考えて「卓球は四人までなんだろう。」と言ったのだろう。 ⑤ 教材の主人公が、登校してきたとおるに何と声を掛けたかについて考え、役割演技を行う。 次の日、しゅんは、とおるに何と声を掛けたのだろう。	
道徳的な価値 の自覚	展開後段	⑥ 自分が主人公だったら、とおるにどのように声を掛けるかを考える。 とおるにどのように声を掛けたら、みんなで仲よく過ごせるだろう。	
	終末	7 本時に考えたことや気付いたことを自らの生活と関連付け、自分なりの考えを道徳カードに記述し発表し合う。 8 教師の説話を聞く。	

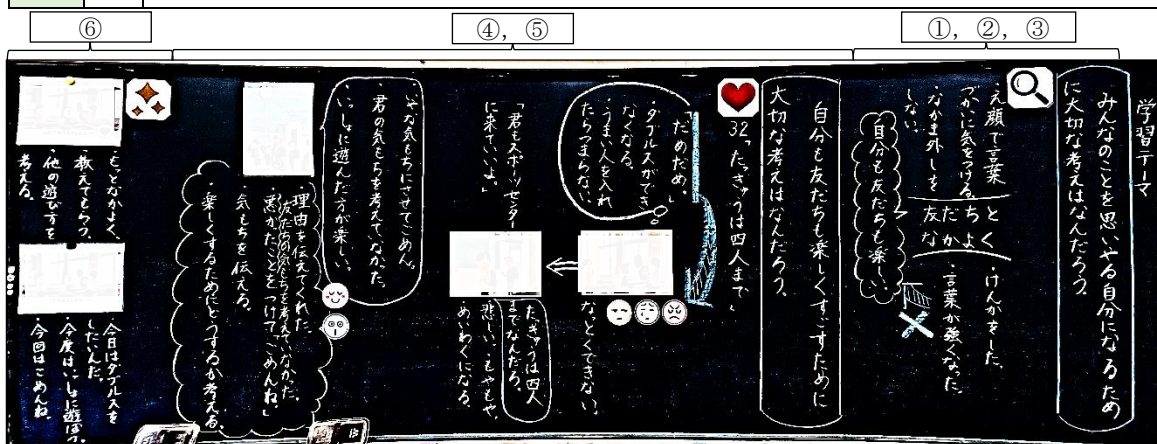


写真5 本時Ⅲの板書

(イ) 問題意識の焦点化について

友達と仲よく過ごせるようにすることが大切であると知りながらも、時としてそのことが実現できていないことがあるという問題に気付くことができるようにするために、事前に行った意識調査の結果と実際の生活経験を振り返った。そして、友達と仲よく過ごすということは、友達も自分も楽しく過ごせることであるということを確認し、そのために大切な考えは何だろうといった問題意識の焦点化を図った。

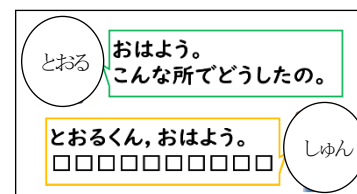
T: 今日は学習テーマについて考えるための最後の授業です(学習テーマを確認)。様々な相手のことを考えて行動する大切さについて学習してきたけど、みんなと特に関わりの深い友達に対してはどうだろう。「友達と仲よく過ごすために気を付けていることがありますか。」とアンケートを取ったところ、全員が「はい」と答えていました。どんなことに気を付けているのかな。
C: 笑顔で話したり、言葉遣いに気を付けたりしているよ。
T: 普段から、友達と仲よくするためにいろいろなことを考えて過ごしているんですね。では、みんなは友達といつも仲よく過ごしていますか。
C: けんかをしてしまうときや、強い言葉になってしまうときがあるな。
T: 仲よく過ごせていないときもあるんですね。ところで、仲よく過ごすってどういうこと?
C: 友達と一緒に楽しく過ごすこと。
T: 友達も自分も楽しく過ごすということが大事なんだね。そのためにどんな考えが大切かな。

(ウ) 望ましい姿の探求について

自分本位な考えで行動した主人公と、その時の相手の気持ちの双方について考えを巡らせるため、教材のあらすじを紹介し、それぞれの登場人物の視点で道徳的場面について考えるよう促した。そして、主人公が「卓球は四人まで。」と言って断った時や、断られた相手の心情について問い掛けた。また、友達とよりよい関係を築いていくための考えについて多面的・多角的に考えて表現し、自分事として捉えることができるようにするため、翌日、主人公が相手に何と声を掛けたかについて話し合う場を設定し、役割演技を促した。

T: (あらすじを紹介) しゅんはどうして断ったのでしょうか。その時とおるはどう思ったでしょう。このことについて考えながらお話を聞きましょう。
T: しゅんは、どんな考えから「仲間に入れてくれないか。」と言ったとおるを断ったのでしょうか。
T: その日の帰り、しゅんは謝って「君もスポーツセンターに来ていいよ。」と言ったよね。それなのに、とおるが「卓球は四人までなんだろう。」と言って帰ってしまったのはどんな考えからだろう。
T: しゅんたちは卓球をしていても楽しめなかったのはどうしてだろうね。そして、次の日にみんななどとおるに謝って遊びに誘おうと考えます。何と声を掛けたのかな(資料10を提示、各班で話し合い、教師との役割演技を発表)。
T: 自分も友達も楽しく過ごすためには、どんな考えが大切だろう(班での話し合い)。

資料10 友達を思う気持ちを伝える場面の役割演技



(エ) 道徳的価値の主體的な自覚について

友達とよりよい関係を築く上で大切にしたい自分なりの考えを明確にし、友達の立場に立って気持ちを考えることの大切さや清々しさをそれぞれの立場で感じ取れるようにするため、教材内の道徳的場面について想像を膨らませ、自分事として考えることを促した。具体的には、主人公が断った場面を用いて、もし、入れてあげるとしたら、また、断るとしたら、自分だったらどのように考え声を掛けるか問い掛け、互いに役を交代して役割演技を行えるようにした。最後に、新たな道徳的価値観の形成を自覚できるようにするため、自己の生き方についての考えを記述する時間を設定した。児童は仲間外しにしないこと、伝え方に気を付けることを改めて意識し、友情、信頼に関わる自分なりの考えをもっていた(表8)。

表8 終末における児童の記述

E児	ことわり方やあやまり方に気を付けて、どのように言うといいか考えてから相手に伝えたい。自分も相手もモヤモヤしないようにしたい。
F児	なかまはずれにしないのと強いことばで言わないことが大切だと思う。なかまに入れなかったら相手はいやな気持ちになるし、自分も入れてあげたらよかったなと思うと思う。

(3) 考察

学習テーマに関わる一連の授業後に自分なりの考えを記述する時間を設定した。まず、児童に改めて「みんなのことを思いやる自分になるためには、どんな考え方が大切なのだろう。」と問い掛け、これまでの学習の振り返りを促した。その際、自分の道德カードや授業の板書を見直し、学んできたこと、感じたことを交流した後、用紙へ記入するようにした（資料12）。

表9は、児童が記述した内容である。学習テーマに関連する自らの具体的な問題を挙げたり、教材を通した学びを自己と結び付けて考えようと意識したりしている記述や、学習テーマについて一連の学習を生かして多面的・多角的に考えていることがうかがえる記述、自らの問題を見つめ直し、これから自分が大切にしていきたい考えや目指したい生き方について、学んできたことを関連付けてまとめている記述が見られた。また、児童の実態を踏まえ、指導計画の最後の授業を「友情、信頼」に関わるものにしたことにより、友達や学級の仲間との関わり方について「親切、思いやり」の授業で学んだことを生かして考えている記述が多く見られた。これらのことから、学習テーマを設定して複数時間の関連を図ったことは、児童が自らの生き方に関わる問題意識をもって多面的・多角的に探求し、学んだ道徳的価値を主体的に自覚するために有効であったと考える。さらに、I児のように、教材を通して伸ばしたい自己に気付いている様子もうかがえた。このことから、学習の前後で自らの道徳的価値観について自覚を促したことは、教材を通して自己の生き方についての考えを深める上で有効であったと考える。

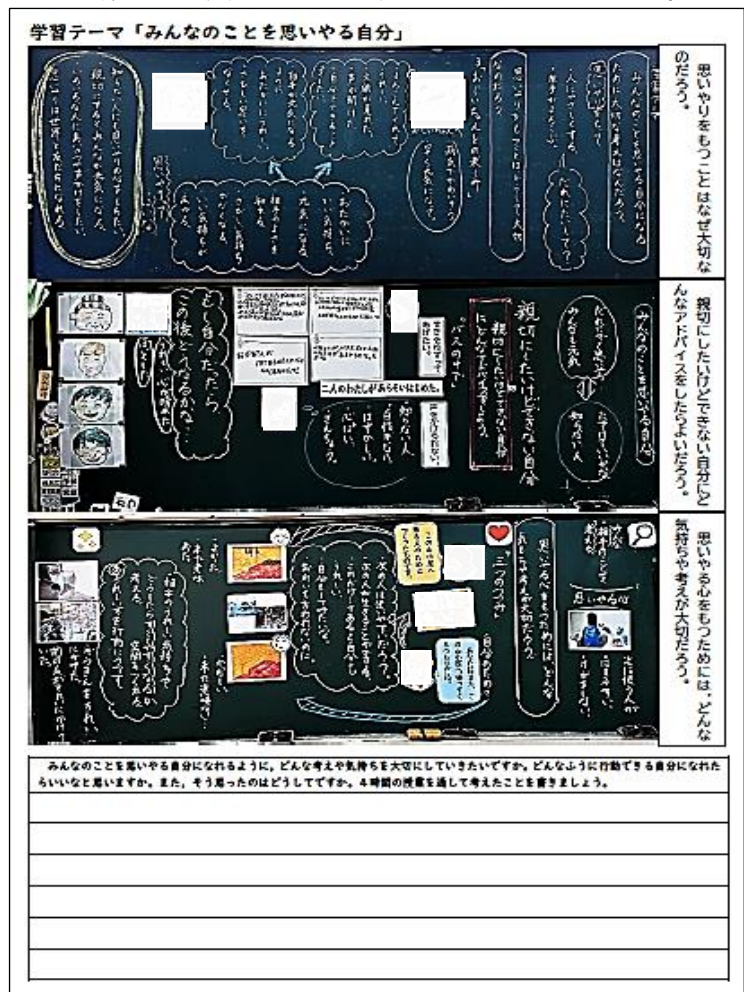
表9 児童が記述した学習テーマに対する考え

※下線は問題意識の焦点化、.....は望ましい姿の探求、.....は道徳的価値の主体的な自覚に関わると考えた箇所である。

G児	<u>私は、たまに言葉づかいがあらくなるので、それを無くしていろんな人と友達になってみんなで助け合いたい。</u> 理由は、言葉づかいがあらいと、自然と相手をいやな思いにさせているかもしれないからです。いろんな人と仲よくなってみんなで助け合いながら協力できたらいいなと思った。
H児	<u>みんなのことを思いやる自分になればいいな。えがおで楽しい学級になる。人がうれしく楽しくなるような行動をしていきたいと思いました。</u>
I児	<u>思いやりのよさを知り、人の気持ちを考えて行動したり、ことわり方やあやまり方を考えたりすることが大切だと思った。</u> 4時間のどうとくで学習したことをじっさいにやり、今までの自分をこえられるような自分になりたい。 <u>どうとくの話を読んで考えると、この登場人物のようになって、今の自分をこえたいと思うことが多かった。</u>

資料12 まとめの際に使用した道德カード

※ 第4時の板書が残された教室で記述するようにした。



IV 研究のまとめ

1 児童への意識調査と考察

(1) 意識調査の概要と結果

調査目的	主体的に自己の生き方についての考えを深める児童を育成するための授業づくりの工夫について、成果と課題を明らかにする。
実施日	令和3年11月29日
調査対象	鹿児島市立犬迫小学校3～6年生34人
調査方法	授業づくりの工夫に関わる児童の意識について、質問紙法により調査
調査結果	表10を参照

表10 児童への意識調査の結果

工夫	視点	設問	結果 (%)	
			はい	いいえ
【工夫1】	問題意識の焦点化	① 授業で考える時に、学習テーマのことを思い出すことができましたか。	97	3
	望ましい姿の探求	② 4時間にわたって考えたことが、学習テーマのまとめを考える時に役立ちましたか。	97	3
	道徳的価値の主体的な自覚	③ 学習テーマのまとめで見付けた自分の考えを、これからの自分の生活に生かしていけそうですか。	97	3
【工夫2】	問題意識の焦点化	④ 「問題は？」の場面で、授業で考えていきたいことやめあてにしたいことを見付けることができましたか。	94	6
	望ましい姿の探求	⑤ 「大切な心は？」の場面で、みんなが気持ちよく生きていくために大切な考えを見付けようと意識して考えることができましたか。	100	0
	道徳的価値の主体的な自覚	⑥ 「これからの生き方は？」の場面で、これからの自分が大切にしていきたい考えや行動の仕方を見付けることができましたか。	97	3

(2) 考察

年間指導計画の工夫について、設問①の結果から、多くの児童にとって、学習テーマが探求すべき課題として認識されていたと考える。設問②の結果から、多くの児童が、自己の生き方において大切にしたい考えを明確にするために、複数時間の学習を関連付けて捉えていたと考える。設問③の結果から、多くの児童が、今後の生活において、複数時間にわたって考えたことを生かそうとする意欲を高めていたと考える。

1単位時間の学習指導過程の工夫について、道徳カードに設けた各記述欄に従って調査を行った。設問④の結果から、多くの児童が、導入においてこれまでの生活や学習を振り返って自らの道徳的価値観を見つめ直すことで、探求していきたい問題を見付けることができたと考える。設問⑤の結果から、調査した全ての児童が、展開前段において、教材から学ぶ際に、本時のめあてに関わる大切な考えを探求する意識を高めて学習することができていたと考える。設問⑥の結果から、多くの児童が、展開後段以降の学習活動において、教材から学んだことを基に、自らのこれからの生き方を支える考えや、主体的な判断に基づく道徳的実践への希望を自覚することができたと考える。

一方で、本調査において、「いいえ」と回答した児童は、年度途中の転入生や自分の考えを記述することが苦手な児童であったことから、課題も明らかになった。一つは、児童が指導計画や学習過程のねらいや学び方に必要性を見いだせるようにすることである。そこで、学習テーマや学習の進め方について十分な説明を行い、児童の自らの生活に関わる問題について探求したいという思いを引き出したり、教室設営等による意識付けを行ったりしていく必要がある。もう一つは、全ての児童の十分な自己との対話を促す手立ての必要性である。机間指導で個別のやり取りを行ったり、対話活動を効果的に設定したりして、児童が自らの考えを明確にし、自信をもって表現することができるようにする必要がある。

2 研究の成果

本研究を進めるに当たって、児童が主体的に自己の生き方についての考えを深めることができるようにするため、教材と児童の生活を結び付けることを意識した年間指導計画や1単位時間の学習指導過程の工夫を行ってきた。

年間指導計画の工夫については、これまでの単発になりがちだった授業を見直し、中、長期的な教師の指導の意図の下に複数時間の授業を関連付けた指導を行った。これにより、児童が自らの問題を明確にし、毎時間の授業を関連付けて多面的・多角的に見つめ、各授業で学んだことを関連付けて自分なりの考えをもつことができた。

1単位時間の学習指導過程の工夫については、児童の思考が教材にとどまることの多かった授業を見直し、道徳的価値を自分との関わりで捉えることができるようにするために、育成したい道徳性の様相を明確にして学習活動を設定するようにした。これにより、道徳的価値を自らの生活と結び付けて捉え、問題に気付いたり、自己の生き方において大切にしていきたい考えや自己の成長を自覚したりすることにつながった。

3 今後の課題

年間指導計画の工夫については、研究において2学級で各4時間の検証を行ったが、長期的、継続的、組織的な実践は不十分である。そこで、学習テーマの設定や指導計画の実施時期等の検討について、学校全体での連携の図り方を検証していく必要がある。表11は、複式5・6年の年間指導計画に取り入れる複数時間の関連を図った指導を立案したものである。

表11 複数時間の関連を図った指導計画案（複式5・6年）※主題・教材は、教科書⁴⁾、⁵⁾から選択。

学習テーマ例と 設定理由	授業の構成			
	時期	内容項目	主題・教材	気付かせたい道徳的価値
「学校を引っ張っていく存在として、どんな考えが大切だろう。」 本校の道徳教育全体目標から、高学年としての自らの在り方を見つめ、他者と共によりよい学校生活を実現するための考えをもてるように設定した。	4月	Cよりよい学校生活・ 集団生活の充実	集団での役割 「二十五人でつないだ金メダル」	・集団の中には様々な役割がある。 ・自分の役割をしっかりと果たす。
	4月	B友情、信頼	男女仲よく 「古いバケツ」	・異性を正しく理解し協力し合う。 ・お互いのよさを認め支え合う。
	5月	C規則の尊重	おたがいのけんり 「住みよいマンション」	・自他の権利を大切にすること。 ・権利には義務が伴う。
	5月	B親切、 思いやり	温かな思い 「くずれ落ちただんボール」	・相手に気付かれぬ親切もある。 ・親切は相手のためを思っている行動だ。
「人を大切にすることはどういうことだろう。」 いじめについて、多様な内容項目からその問題点を理解し、なくしていくための考えをもてるように設定した。	6月	A善悪の判断、自律、 自由と責任	自由と責任 「ほんとうのことだけど…」	・自由は何をしても許される訳ではない。 ・自由の中で自らを律することが大切だ。
	いじめを 考える 月間	B相互理解、 寛容	相手の立場も大切に 「すれちがい」	・相手を理解しようと努める。 ・相手の立場を考えて行動する。
		C公正、公平、社 会正義	公平と不公平 「これって不公平？」	・差別や偏見をしない。 ・相手の立場や考えを受け止める。
		D生命の尊さ	せいいっぱい生きる 「命のあさがお」	・限りある命を精一杯生きる。 ・我々は他者とつながり共に生きている。
「『みんなが楽しい』と思えるために大切なことはなんだろう。」 修学旅行に向けて、様々な道徳的場面において主体的な判断ができるように設定した。	9月	A節度、節制	自分を守る力 「自分を守る力って？」	・自分を守るのは自分自身だ。 ・安全は、節度ある生活や考えに支えられている。
		A善悪の判断、自律、 自由と責任	自由の難しさ 「自由行動」	・互いの自由を尊重する。 ・自由を生かすことを考える。
		B相互理解、 寛容	相手を理解する心 「ぼくだって」	・相手の状況は自分にも起こり得る。 ・失敗は誰しもつらいものだ。
「これからの自分が精一杯生きていくために大切にしたいことはなんだろう。」 最高学年への進級、中学校への進学に向けて希望をもつことができるように設定した。	2月	A個性の伸長	大切な自分らしさ 「マンガ家 手塚治虫」	・自分の好きなことを追究する。 ・自分の長所を自覚し、伸ばす。
	2月	B礼儀	礼儀正しさ 「人間をつくる道〜剣道〜」	・礼儀は相手を敬うことだ。 ・礼儀正しさが自らを高める。
	3月	Dよりよく 生きる喜び	ほこりある生き方 「スポーツの力」	・逆境を乗り越えて前向きに生きる。 ・誇りある生き方は尊い。
	3月	A希望と勇気、 努力と強い意志	終わりのなきちようせん 「iPS細胞の向こうに」	・目標をもって挫けず努力する。 ・困難を乗り越えるから成長する。

1 単位時間の学習指導過程の工夫については、道徳性の諸様相の指導の在り方について、発問内容や効果的な活動を教員間で共有できるよう手立ての共通理解や改善を行っていく必要がある。そこで、作成した発問例の有効性について検証を行っていききたい（表 12）。

さらに、本研究における取組をより効果的なものとするために、設定した学習テーマの意義や授業を通した児童の考えの深まりについて、教室設営による児童間の共有や、保護者並びに地域に積極的に発信していくことが重要であると考え。このように授業外でも道徳科で学んだことと児童の生活を結び付ける工夫を考えていきたい。

表 12 道徳性の諸様相を育てることを意識した指導の工夫

道徳科において育てる 道徳性の諸様相	児童に考えさせたいこと	発問例
<u>道徳的判断力</u> それぞれの場面において善悪を判断する能力	- 問題場面における当事者や相手の気持ち、立場の推察 - 問題場面における人としての適切な判断とそれを支える考え方の理解 - 問題場面において考えられる行動や対処の仕方	〇〇な場面で△△するには、どのような考えや気持ちが必要だろう。 〇〇な場面で、人としてよりよい姿はどうすることだろう。 〇〇な場面では、どのような行動の選択肢があるだろう。
<u>道徳的心情</u> 道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情	- 道徳的価値を実現することのよさや大切さの理解 - 道徳的価値を実現することによる当事者や相手の気持ちよさの理解 - 道徳的価値が自分自身の生活に関わっていることや、生活に及ぼす影響の認識	〇〇することは、自分や相手にとってどのようなよさがあるのだろう。 〇〇することができたことはありますか。どんな考えで行動しましたか。 〇〇することは、どうして大切なのだろう。また、〇〇しなかった場合、どうなるだろう。
<u>道徳的实践意欲と態度</u> 道徳的心情や道徳的判断力によって価値あるとされた行動をとろうとする傾向性	- 道徳的価値に関わる生活場面の想像 - 道徳的価値の実現を阻む心乗り越える自らの考えの自覚 - 道徳的価値を実現していこうとする気持ちの高まり	〇〇することが大切な場面は、どんな場面があるだろう。 - どんな考えや気持ちがあれば、自分がよりよいと思うことを進んで行動に移せるだろう。 - これからの自分にできることや、やってみたいことはどんなことだろう。

〈引用文献〉

- 1) 田沼茂紀(2017)『道徳科授業のつくり方ーパッケージ型ユニットでパフォーマンス評価ー』 東洋館出版社
- 2) 文部科学省(2021)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』(2版) 東洋館出版社
- 3) 文部科学省(2020)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』(6版) 廣済堂
- 4) 佐々木秀樹(2021)『小学道徳 生きる力5』 日本文教出版
- 5) 佐々木秀樹(2021)『小学道徳 生きる力6』 日本文教出版
- 6) 佐々木秀樹(2021)『しょうがくどうとく いきるちから1』 日本文教出版
- 7) 佐々木秀樹(2021)『小学どうとく 生きる力3』 日本文教出版
- 8) 佐々木秀樹(2021)『小学どうとく 生きる力4』 日本文教出版
- 9) 赤堀博行(2018)「道徳授業における 教材活用に関わる一考察」日本道徳教育学会『道徳と教育 336号』 pp.107-117

〈参考文献〉

- 赤堀博行(2010)『道徳教育で大切なこと』 東洋館出版社
- 赤堀博行(2013)『道徳授業で大切なこと』 東洋館出版社
- 荒木寿友・藤澤文(2019)『道徳教育はこうすれば〈もっと〉おもしろいー未来を拓く教育学と心理学のコラボレーションー』 北大路書房
- 鹿児島県小学校教育研究会道徳部会『かごしまの「価値分析本」』 青葉印刷
- 坂本哲彦(2018)『「分けて比べる」道徳科授業』 東洋館出版社
- 澤井陽介(2019)『教師の学び方』 東洋館出版社
- 田沼茂紀(2021)『道徳科重要用語事典』 明治図書出版
- 田村学(2017)『深い学び』 東洋館出版社
- 藤田哲也(2021)『絶対役立つ教育心理学(第2版)ー実践の理論, 理論を実践ー』 ミネルヴァ書房

長期研修者 [外 崇 広]

担 当 所 員 [有村 和章]

【研究の概要】

本研究は、教材と児童の生活を結び付ける指導の工夫を通して、主体的に自己の生き方についての考えを深める児童を育成する道徳科の授業の在り方について研究を進めたものである。

よりよく生きたいと願う児童が、道徳科の授業において学んだことを自分事として捉えるためには、「問題意識の焦点化」、「望ましい姿の探求」、「道徳的価値の主体的な自覚」といった学びの姿を実現することが大切であると考える、これらを授業づくりの視点として指導の工夫を行った。具体的には、複数時間の関連を図った指導を年間指導計画に取り入れ、1単位時間の学習指導過程においては、育成したい道徳性の様相を明確にした学習活動の設定を図った。

その結果、児童から「道徳の話を読んで考えると、この登場人物のようになって今の自分を越えたいと思うことが多かった。」といった振り返りの記述が見られるなど、自らの生き方に関わる問題意識をもって多面的・多角的に探求し、学んだ道徳的価値を主体的に自覚する姿が見られた。

【担当所員の所見】

道徳科の学習指導に当たっては、道徳的な行為を題材とした教材を用いることが一般的であるが、児童の生活経験は様々であるため表面的な理解に留まってしまうことも少なくない。また、実際の生活場面で道徳的な行為がなされる場合は、ある内容項目だけが単独に作用することは少なく、また、個々の状況によって道徳的実践を支える考え方も一様ではない。したがって、児童が教材を自分との関わりで考えることができるよう必要感を高めたり、毎時間の指導に関連性をもたせたりする工夫が求められる。

本研究では、複数時間の関連を図った指導に取り組んでいるが、学校の道徳教育重点目標等を踏まえた上で、児童と共に学習テーマを設定することで動機付けを図っていることに意義がある。また、児童が毎時間のつながりを意識できるよう道徳カードを工夫したり、道徳的実践意欲が高まるよう展開後段において実際の生活場面との関連付けを図る活動を設定したりしていることは、各学校での実践の参考になるものと考えている。

年間指導計画の改善等には、学校としての組織的取組が不可欠であることから、リーダーシップを発揮し、研究実践に継続的に取り組むことを期待する。